

武蔵野 EMC のカリキュラムとアントレプレナーシップ等の成長実感に関する研究

荒井健^{*1}・高松宏弥^{*2}

Email: s2240038@stu.musashino-u.ac.jp

*1: 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

*2: 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

◎Key Words アントレプレナーシップ教育, カリキュラム

1. はじめに

本研究は、日本の大学における学部レベルのアントレプレナーシップ教育の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

特に、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科（武蔵野 EMC）のカリキュラムを事例として検証を行う。アンケート調査やインタビュー調査を通じて教育効果を調査し、効果的なカリキュラムと学習環境を明らかにすることを目指す。本研究の成果は、アントレプレナーシップ教育のあり方についての議論に貢献することを目的とする。なお、本研究における「アントレプレナーシップ」の定義を研究対象の武蔵野 EMC の定義する「高い志と倫理観に基づき、失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を見出し、創造していくマインド^①」とする。

2. 序論

2.1. 背景

2022年11月に「スタートアップ育成5か年計画」が策定された。同計画には、スタートアップ創出のための第一の柱としてスタートアップの創出に向けた人材・ネットワークの構築が盛り込まれており、スタートアップ創出の鍵となる起業家育成や起業家教育への関心が高まっている^②。

日本では、起業家教育の取り組みが限定的である^③。アントレプレナーシップ教育を普及させるためには、既存の取り組みの効果を検証し、優れた教育を明らかにし、体系化していく必要がある。しかし、アントレプレナーシップ教育における効果検証や方法論は不足している。

2.2. 目的

武蔵野 EMC のカリキュラムが学生のアントレプレナーシップ向上にどのように影響しているかを明らかにする。本研究における調査の観点は以下の通り。

- ・ 武蔵野 EMC のカリキュラム構成
- ・ 入学前と比較した能力・スキルの変化
- ・ 成長実感と要因

3. 方法

3.1. 公開情報調査

武蔵野大学及び武蔵野 EMC のホームページ及び履修要覧等をもとに、カリキュラム設計を検討した。

3.2. アンケート調査

武蔵野 EMC の学生に対し全数アンケート調査を行った。内容は以下の通り。

- ・ 調査時期：2023年10月30日から2023年11月2日
- ・ 対象者：武蔵野大学アントレプレナーシップ学部1年生から3年生170人
- ・ 回答者数：170人（回答率：100%）

3.3. インタビュー調査

武蔵野 EMC の集大成とされる科目のプロジェクト基礎・応用・発展の科目から成績優秀者を抽出し、それぞれの成長実感と要因についてインタビュー調査を実施した。内容は以下の通り。

- ・ 調査時期：2024年3月20日から2024年4月5日
- ・ 対象者：プロジェクト成績優秀者（EMC SUMMIT 登壇者）のうち7名

4. 結論

4.1. 武蔵野 EMC のカリキュラム

武蔵野 EMC のカリキュラムは、図1の「武蔵野 EMC 科目体系図^④」に示されるように、マインドセット、事業推進スキル、実践の3つのカテゴリーに大別される。また、習得内容をもとに13の科目群が編成されている。

マインドセットの科目はアントレプレナーシップ1A～4Dの科目を通じて四年間提供される。また、マインドセット科目は1・2年次を中心に多くが必修科目として開講されている。講義形式はグループでの対話を取り入れられている対話型の講義とセミナー形式の講義が多く取り入れられている。

事業推進科目は主に1・2年次に多く配置されている。クリティカルシンキング基礎、ビジネスモデル研究基礎、インターネットビジネス基礎の3科目のみが必修科目とされている。講義形式としては、ハンズオン形式の講義が多い。

実践科目は、1・2年次では主に PDCA を実行する能力の拡充が図られ、3・4年次では事業推進スキルを基に実践が行われるという構成になっている。実践科目は、マインドセット科目と事業推進科目での学びの集約点と捉えられている。講義形式は、主に実習形式である。

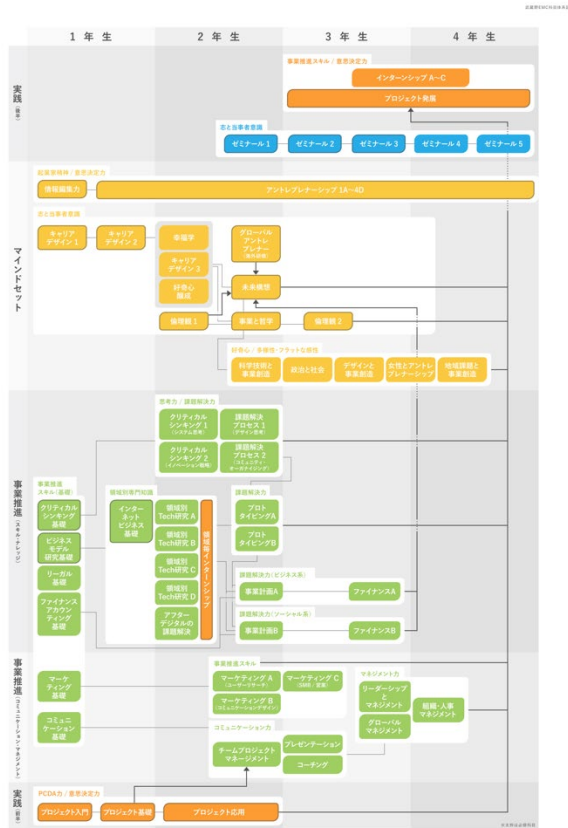


図1 「武蔵野 EMC 科目体系図」

4.2. 入学前と比較した能力・スキルの変化

入学前と比較した能力やスキルの変化について、図1の「武蔵野 EMC 科目体系図」で示されている13の教育課程を基に13項目のアンケートを実施した。

その結果、すべての項目で Top2Box（当てはまる・やや当てはまる）の割合が50%を超えていることが分かった。

特に、マインドセット科目の「好奇心／多様性・フラットな感性」に関する質問では、50%以上が Top Box（当てはまる）を選択している。一方で、事業推進科目において、「事業推進に必要な基礎的なナレッジ」のリーガルとファイナンスアカウンティングの両項目で成長実感の低い Bottom2Box の割合が約40%に達している。

入学前と比較した能力・スキルの変化

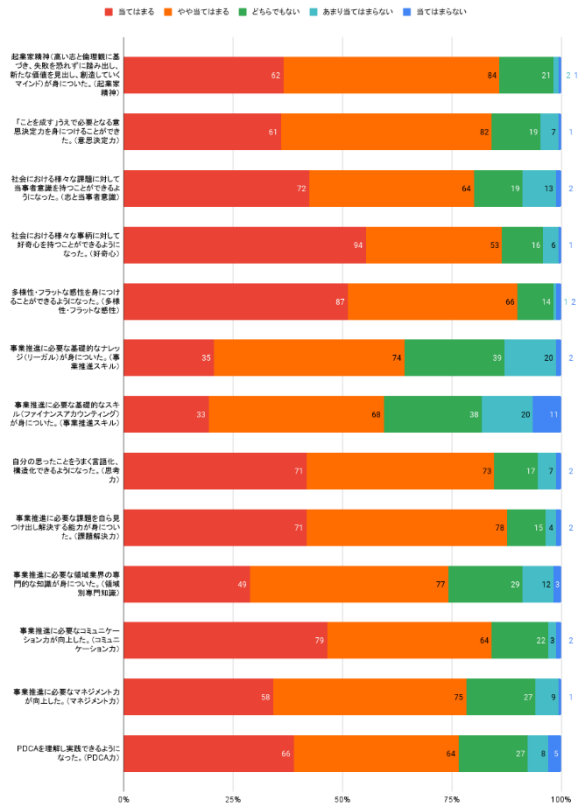


図2 「入学前と比較した能力・スキルの変化」

4.3. 成長実感と要因

インタビュー調査の結果、成長実感に関して以下のような意見が出た。

まず、複数の学生から、授業による成長実感についてネガティブな意見や疑問視する意見が見られた。特に、事業推進科目に関する意見が多く見られた。一方で、アントレプレナーシップの醸成や成長実感に影響を与えた授業やイベントとしては、アントレプレナーシップ1Aから4D、クリティカルシンキング、さらには1年次の寮生活などの対話の機会が挙げられていた。

また、多くの学生が、自身のプロジェクトを推進する際に武蔵野EMCの教員の持つ人脈が役立ったと回答した。

5. 考察

今回の研究から、武蔵野EMCのアントレプレナーシップ教育には以下の現状や課題、特徴があると考えられる。

まず、成長実感やアントレプレナーシップの醸成には、授業外の影響があることがうかがえる。アンケート調査では、高い成長実感が見られたが、インタビュー調査では武蔵野EMCの講義での学びや成長実感があまり高くないという意見が見られた。これは、プロジェクトやインターンシップなどの課外活動での成長実感が高い可能性がある。また、インタビュー調査の結果から、アントレプレナーシップの醸成は授業カリキュラムだけでなく、1年次の寮生活やゲスト講師の訪問など武蔵野EMCの学習環境による影響が強いことが考えられる。この結果から、武蔵野EMCでの学びには、授業だけでなく、インターンシップやプロジェクトなどの実践の場や、学外での

学習環境などが大きく影響していると考えられる。

次に、武蔵野EMCの人脈が学生のアントレプレナーシップの醸成に影響があると考えられる。インタビュー調査において、多くの学生から「人脈」というキーワードが頻繁に見られた。教員や友人からの紹介などで構築した人脈が学生に大きな影響を与え、成長実感を高めたと述べられた。これにより、アントレプレナーシップの醸成には、周囲の人脈が一定の影響を持つことが示唆される。

さらに、成長実感が高かった授業や体験の特徴として、対話が多いことがあげられる。インタビュー調査で複数人がアントレプレナーシップの醸成や成長実感に影響を与えた講義やイベントとして挙げたクリティカルシンキングの講義は対話型の授業であり、寮生活も対話の機会が多い。対話は成長実感やアントレプレナーシップの醸成に影響をするのではないかと考えられる。

これらの結果を踏まえ、今後のアントレプレナーシップ教育の改善には、授業以外の学習環境の整備や、人脈構築を支援する取り組み、対話が重要であると考えられる。

6. 課題と展望

今回はインタビュー調査の対象を成績優秀者に限定したが、その他の分類の学生にもインタビュー調査を行い、その違いを比較する必要がある。大学生生活全体での成長実感（アンケート調査）と授業における成長実感（インタビュー調査）に乖離が見られた。そのため、この差の原因と考えられる学習環境や教員・友人との関係についても、さらに調査を進める必要があると考える。

また、今回の調査は主観的な成長実感に基づいているため、客観的事実に基づく教育効果の検証も必要である。

7. おわりに

本研究では、武蔵野EMCのカリキュラムが学生のアントレプレナーシップ向上にどのように影響しているかを明らかにするために、「武蔵野EMCのカリキュラム構成」、「入学前と比較した能力・スキルの変化」「成長実感と要因」の3つの観点で分析を行った。その結果、本研究から、武蔵野EMCのアントレプレナーシップ教育において、授業外の実践や学習環境が成長に大きく影響していることが考えられる。また、教員や友人との人脈が成長実感を高める要因となっており、今後の改善にはこれらの環境整備が重要であると考えられる。さらに、対話型の講義や対話の機会等が、成長実感の高い講義やイベントとしてあげられている。教育効果を高めるためには、対話の機会も大切であると考えられる。しかし、今回の調査は限定的であることや主観的要素である成長実感に基づいているため、より客観的な数値などでの教育効果の検証をする必要があるだろう。

参考文献

- (1) 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 (EMC) .(nd).武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 (EMC) .
<https://emc.musashino-u.ac.jp/>, (参照 2024-06-27)
- (2) 内閣府(2022).「スタートアップ育成5か年計画」.
https://www.cas.go.jp/jp/scisaku/atarashii_sihonsyugi/pdf/sdfyplan2022.pdf ,

(参照 2024-06-27)

- (3) 有限責任監査法人トーマツ (2021). 「持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析」.
https://www.mext.go.jp/content/20210728_mxt_sanchi01-000017123_1.pdf, (参照 2024-06-27)
- (4) 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 (EMC) .(nd).カリキュラム.
<https://emc.musashino-u.ac.jp/curriculum/>, (参照 2024-06-27)